

# まだ遅くない

葉月 一郎  
え・小西保文 (筆字)



## 亀裂のとき

嵐が去った。

潮のひくように、それは汚れきった部屋から消えていった。

戸波は、いや、亜紀子も、意志のない人形のように並んで横たわっていた。

二人とも、天井へ視線を送っている。が、なにも見えない。

しらけた、ザラザラした沈黙が部屋を占領してから、もう何十分たったのだろうか。時は容赦なく刻まれているのに、それだけは居すわったまま澱んでいる……。

(これが、幕切れの儀式だったのだ)

からっぽの頭で、戸波はふと思う。

乱暴な儀式だった。予想もされなかった終章である。

次の幕が決して開いてくれない、文字通りのフィナーレ……。

〈あらすじ〉神戸に君臨する大企業、兵庫製鉄(兵鉄)の公害をなくそうと、毎朝新聞神戸支局の石津支局長がキャンペーンを企画、取材をすめていた。昭和四十五年秋のことだ。

仕事への情熱を失い、バーの女ユカとの情事におぼれていた戸波(主人公)も、十年のキャリアを買われて参加する。たまたま静客にからまれているところを助けてやった兵鉄秘書課の細川亜紀子と親しくなり、亜紀子は会社官邸の新聞社対策などをそのつど戸波に知らせて協力する。ある夜、二人は六甲山のホテルへ泊るが、体は結ばれないまま一夜をとるにする。亜紀子の兄も記者だったが誤報事件のワナにかけられて自殺したと告白する。

兵鉄の花柳総務部長は二人の関係をかぎつけ、亜紀子を工場勤務へと配置がえする。新聞社にも記事とりやめの申し入れをしたらしく、支局長や泉田次長らは本社へ喚問され、キャンペーンは掲載直前に中止と決まる。

傷心の戸波は、その夜、亜紀子がひそかにアパート暮らしをしていることを知り、疑惑を深める。真相のつかめぬまま酒に溺れた戸波の帰宅を待っていたのは亜紀子だった。彼女はキャンペーン中止の理由を問いつめ、「新聞記者はキライ」と叫ぶ。戸波は激情の中で亜紀子を抱き、なにかは暴力的に侵してしまおう。

そつと視線を横に移す。

手の届くところに亜紀子がいた。

もぎとられ、ひきちぎられた衣装のままで横たわって

いた。

うつろな、どこか投げやりな表情が、硬く凍えている。

抵抗をやめたとき、涙が頬を伝った。戸波を受け入れはしたが、決して許してはいなかった。いっさいの情感をとり払った丸太ン棒のような肉体でしかなかった。

それは、最大の拒絶であつたろう。

嫌悪と憎しみをあらわす、最も適切な方法だつたといえる。

そして、いまでも、沈黙という形の怒り――。

たまりかねたように口を切つたのは、戸波の方だつた。

「わるかった。済まない」

返事はなかった。

表情も全く動かない。

それが、少しずつ戸波をいらだたせた。

「許してくれる、とは思っていない。でも、わかつてほしい。好きや。いまでも、好きや」

寝転がったままで、にじり寄る。ささやくように、つづける。

「どうしようもなかったんや、ああするよりほかに、何というか、自分の気持ちをぶつつける方法がなかったんや」

それは事実だつた。そうとしか、いいようがなかった。

行為のあと、ひたひたと毛穴からわき出てくる後悔の念のなかで、戸波が懸命に整理した心情とでもいおうか。

だが、亜紀子の反応はない。

ただ、ひたすら押し黙っている。それが最大の制裁であるともいうように。

言葉が、なくなった。

同じことを繰返す以外に、胸の底を告げる方法がない。

思い余って、そつと腕をのばす。

裸に近い女の胸を抱き寄せようとする。

それでも、亜紀子は意志を見せなかった。さからわな

い。かといって、応じるわけでもない。

まるで、路傍の電柱に語りかけ、抱きついていて、そんなピエロに似た自身に、戸波は気がつく。

ダメな男、卑劣な男、落伍者、敗残兵、やけっぱち、すれっからし……いくつかのレッテルを、ピエロの上に貼りつけてみる。

「新聞記者なんて、みんな、きらい」

その叫びが、思えば亜紀子のことばの終りだつた。

(きらいでもいい。何かいってくれ)

哀願に似た気持で、腕に力をこめる。

それとタイミングを合わせるように、ドアをノックする音が聞こえた。

コツ、コツ、コツ

低く、遠慮深げな音である。それは、もう一度、繰り返された。

反射的に、腕時計をみる。

午前三時に近い。

(だれだ。こんな真夜中に……)

起き上がろうとして、自分の姿に気が付く。上はシャツだけ、下半身は裸に近い。

亜紀子の表情が、はじめて動いた。眼が、来客を拒否するように語りかけている。

肯いた。

ノックの音が、今度は、やや強さを増す。

「戸波さん、戸波さん」

男の声である。

寝ているのなら、起こしてやるぞという意志をもつて、ノックの音も一層激しくなる。

「戸波さん」

三度目で、その声の主を思い出した。

明らかに、八木沢記者のものである。

呼び出しに違いない。

大きな突発事件のとき、原稿の問い合わせのとき、そのほか、さまざまの必要が生じたとき、新聞記者の世界

では、呼び出しをするのが常識である。

だから、会社を出たあとも、できるだけ居所を明らかにしておくことを要求される。

いわば、警官と同じように、外勤記者の場合は二十四時間勤務といえるだろう。

肺臓の奥に響くようなノックの音を聞きながら、しかし、戸波は、逆に体を再び横たえていた。

もう俺は、呼び出したり呼び出されたりする世界とは縁切りにしたい。そんなことに情熱を燃やす価値が、あの世界にあるとは思えない……。

(いいのかい、それで——。こんな夜更けに来るほどだから、かなり重要な連絡じゃないのかな)

心の中で、そう問いかける声もないではない。だが、それも一瞬に消えた。

(そうだ。もう、こんな仕事は、やめてしまおう)

新聞記者への訣別——。

それは、あの堂本俊夫の判決原稿を書いたころ、胸いっぱいに広がっていた決意であつた。

その決意が崩れたのは、支局長によって、兵庫製鉄の公害キャンペーンチームへ誘いこまれたからにほかならない。

だが、いまや、そのキャンペーンもつぶれて果てた。追いつけかけないように堂本の死。そして、亜紀子に対するなかなば暴力的な行為——。

自嘲が、まるで決壊した河の泥水のように押し寄せてくる……

……

とうとう諦めたのだろうか、ノックの音は止まった。人の気配も去った。

この一カ月、公害取材の苦しみをともにした八木沢記者。その一歩ずつ立ってゆく後ろ姿が、チラと脳裏をかすめる。

(あれも、これも、終りだな)

夜気が、ひとときわきびしくなった。

「寒いわ」

いつの間にか上半身を起こしていた亜紀子が、首をすくめて急に口をひらいた。

「ね、あなたのスポーツシャツか、カッターでもいいわ、一枚、貸して頂戴」

引き裂かれたブラウスを戸波に示すと、亜紀子は(あなたが破ったせいよ。代りがあるの)と、目で語りかけた。

その、ひとこまの仕草だけで、戸波はホッと救われた思いである。とにかく、一言でも言葉をかけてくれたのだから……。

いそいそと、待ちかねたように立上がった。整理ダンスをかきまわす。クリーニング屋から戻ってきたまま一年あまりも手を通さなかった黒地のシャツを出す。

「これ、着てくれる？」

無難作に受けとると、亜紀子はそれを頭からかぶった。肌の白さが、黒のタートルネックで一層ひきたったみえた。

「済まなかった」

あらためて、詫げる。

だが、亜紀子は応えない。表情も、元の硬さにもどっている。

そのまま素早く身仕度すると、亜紀子はハンドバッグを



つかんだ。足早に戸口へ急ぐ。

「待ってくれ」

「さよなら」

二つの短かい言葉が、同時に出了た。ぶつかって、砕けた。

「こんな夜中に、君、どうして……」

未練な戸波の声を、女の背中が

はね返す。ドアをしめる音が、夜気を破る。

埃っぽい部屋に、半裸の、ぶざまな男がひとり、取り残された。そして、引き裂かれた女のブラウスが――。

その裂け目は、ふたりの心の亀裂を示すように、なまなましく、歪んでみえた。

あくる日の夕方――。

戸波は神戸支局の階段をゆっくり上がっていった。

内ポケットの封書が、一段あがることにカサカサと音を立てた。

「一身上ノ都合ニヨリ、退職シマス」

封書の中身は、出がけに便箋にしたためた辞表である。

会社をやめて、何をしようというアテがあるわけではない。だが、いまは一刻も早く、この世界を離れたい。

そんな想いが辞表につながった、というべきだろう。

もともと、情熱は失っていた。そして、こんどの、たとえようもない挫折感。それが、戦線離脱へと拍車をかけたようである。

出がけに、ドアのすき間から投げこまれたメモ用紙をみつけた。

「緊急の打合わせ事項があります。これを見たら、すぐ支局へ連絡して下さい」と走り書きがあった。

八木沢記者の署名が添えられている。



る。

支局はガラシとしていた。

支局長の姿もみえない。泉田次長も気配がない。

地方版デスクの、ひまそうな生アキビをチラと横目でみながら、戸波は自分の席についた。黙って、引出しの中の整理をはじめた。

五年間、親しんだ机である。ここで、いくつかの特ダネを書いた。原稿の結びの、たった一行の表現に頭を悩まして、一晩中、苦吟したこともある。ちよっとした油断から他社に出しぬかれて、無念の想いをかみしめたのも、この席だった。

だが、そうした感傷を暖める余地もないほど心は冷えていた。もう一カ月も前から予定した行為のように、引出しの片付けは淡々と進んでいった。

「あ、戸波さん」

呼び声に振り向くと、八木沢が立っていた。

「どうしてたんです。捜してたんですよ」

「……………」

「メモ、みてくれましたか」

あいまいに背くの認めると、八木沢はせきこんだよ

いわば居留守  
を使って、ムダ  
足を踏ませた八  
木沢の残してい  
った伝言メモで  
ある。  
ふと、心が痛  
んだ。

だが、それも  
一瞬に消えた。

「打合わせ」の中身が何なのか、それ  
をセンサクする気持さえ起らない。

泥のような疲労と二日酔いの頭で  
は、考える余裕さえなかったのでは



うにいった。

「巻き返すですよ、戸波さん。とにかく、何としてでも、あの原稿は、陽の目をみるようにせにやいかん。とにかく、本社へもう一度、アピールしようということになりましてね……」

病院で堂本の死に直面しているころ、八木沢たち数人は残念会のもりで三宮のスタックで杯を重ねていた。そこで、巻き返しの話が再び出たのだという。

「非合法というか、まあ、うちの新聞以外の場で、いろんな形で活字にするのは二の次だ。それよりも、何とか本来の紙面で実現するように、職制を抜きにしても、再交渉すべきだ、というのが大勢を占めたわけですよ」酒の勢い、ばかりではない。

緊急部会といった公式の席を通り抜けたあとで、はじめて本音論が出たのも当然かもしれない。

松岡、海野、八木沢、それに木曾——いわば「七人の侍」の主力記者たちが、こぞって強硬論に固まった。中止の理由を公開質問状のような形にして編集局長室に問いたです。密室で行なわれたやりとりを、それによって公式の場合へ引き出す。

拒否されたら、労組の問題、ひいては表現の自由制限といった形で論議に持ちこんで、全社員にアピールしてゆく……。

「穏当な手段とはいえないかもしれないけど、筋を通しながら押しの一手でやってみよう。みんな、そういつてるんです」

八木沢は、この男に似ず興奮気味に説明した。

「それで、いつ、それをやるんや」

「いや、戸波さんにも加わってもらおうと、待っていたから、遅くなったんです。いずれにしても、あす中に本社へ行きます」

本当にやる気だな——そう思わせる意志力が、八木沢の眼鏡の奥に見えた。

「君。君は大体、慎重論じゃなかったのかね」

「戸波さん。いま、そんなこと、いつてる場合じゃないでしょう」

叱責に似た口調だった。

「支局長は、どうしてる」

「病氣らしいんです。きょうは来てません。しかし、今度のことは支局長抜きでやっております。あの人は関係ないんですよ」

八木沢のことは、かすかな敵意が読みとれた。この優等生は、指揮官が独断で屈服したこと、思わぬ血氣を表面に出してきたようである。

戸波は、急に自分がひどくみすばらしく見えた。八木沢たちの持っている若さ、一途さが羨ましくてならぬ。

だが、だからといって、この青年たちと行動をとにもする気持には到底なれない。

それは、新聞社という機構の中で、正確に階段を一步步づつ昇ってゆく者と、階段の踊り場でくわえ煙草をしている者との差なのかもしれない。

戸波は、その階段をひたむきに昇っていた。社会部記者時代、タクシー汚職事件の取材に当たっていたころを思い出す。疑惑の代議士を問いつめて聞き出した話を記事にしたら、激しい訂正要求が来た。そんな発言はしていないと……。

（あのときも、会社はおれをかばってくれなかった）  
その結果、彼は神戸支局へと転動させられたのである。

「八木沢君、わるいけど、おれ、君らと行動をとにもしないよ」

なぜですか——問い返そうとする八木沢の鼻先へ、内ポケットから出した封書をつきつける。

「これ、支局長に渡しておいてくれんか」

表書きの「退職願」の三字が、黒々と踊ってみえた。

（つづく）

## talk and talk



〈★神戸っ子愛読者サロン〉

それとも、フリーバザールに参加し、自分が撮った本州最後のSL「さよなら石州号」の写真を、街頭でパネル張りしながら売ったら、たとえ売れても、売れなくてもともてと楽しいだろうな……等と勝手な夢を膨らませています。

それでは、月刊「神戸っ子」のますますのご発展をはるかに祈ります。

〈島根県山陽国東半島〉

田宮 幹夫(写真家)



真白な 陶磁器を

眺めてはあきまぜず……

神戸を、こよなく愛する 君が

初めて 連れて行ってくれた お店

宮本珈琲の、ふくよかな香り

君が お土産に 求めてくれた

真白な カップ

今日も 大切に 使っています

☆ぜひ来年の神戸まつりは随ら

にヤンソンと、サンパを踊ってオ

ッチョコチョコイ神戸を楽しんでくだ

さい。

〈編集部〉

★暦の上でも梅雨に入り、気の滅入

するような毎日ですが編集室の皆様

はお元気で御活躍のことと存じま

す。

いつも「神戸っ子」お送り下さい

まして有難うございます。早いもの

で、神戸を離れるのが嫌だとい

いながら、東京へ嫁いで一年が過ぎ

ました。神戸に住む姉が寂しいだろ

うと「神戸っ子」を頼んでくれたの

がちょうど去年の今頃です。それか

ら毎月楽しみに届けられるのを待

っています。そして主人も今や愛読者

になって、これからの一年は主人が

スポンサーになってくれました。離

れていても「神戸っ子」のおかげ

で、神戸のニュースに遅れる事な

い。

〈編集部〉

★「神戸っ子」お送り下さい

く、帰った時も、どこへ行くかと  
「神戸っ子」を案内にプランをたて  
たりしています。

これから暑さも厳しくなりすが  
御身体に気を付けて楽しい本を送っ  
て下さい。〈東京都江東区松山美子〉

☆ご主人がスポンサー？うらやまし  
いですネ。

★朗読ご免下さいませ。

毎回楽しく拝見させていただいて  
おります。北国の空の下ではよっ  
と感じられない底ぬけに明るい気質  
みないなものを

★COBE……の言葉の響きの暖かさ  
とCOOLな面との調和を心から  
愛しております。益々貴社が発展さ  
れます様お祈り上げます。

〈福島県西白河郡 佐藤栄子〉

☆どういうわけか空・梅雨で、KO

BEは水色の空です。

★札幌市を、道都と呼ぶのは北海道

人。住んでいる街は、やはりヒキキ

にしたものの、人口一〇〇万を越

え、リトル東京、じゃなくして。ラ

イラク、すじこ、シヤモ、スズ

ラン、時計台に熊の彫りもの。今は

いい季節。

★札幌市 楠本大

☆札幌白点送って下さってありがと

う。鈴蘭の香りがいいばい。〈M〉

★札幌は緑の夏。本日、日中25℃。性

純ナマ50男。下腹1モータッサン

酒。七生甲斐。聖子ファン。(特に

エッセー) 山藤章二天好き。もう笑

品集の読者。

★札幌市楠本大

☆朝子ハンも、カモカのオウチヤン

もステキ。もうさんはオトコマエ。

いねるのママはベビビ。灘の生

一本はなおステキ。

★長く曲折の多かった道のり。

フリーから組織、組織からフリー

へと、気が付いたら、あれだけ神戸

を愛した僕が大阪の片隅の神戸の4

坪の一家に強りカラインクを見つ

めているわけです。こまでは、神戸

の緑の匂いも、港の潮の匂いも居き

はしない。だけどHOMEだければ神

戸を離れるものかと。せせと神戸

大阪間を往復しているわけです。

なつかしい「サンチカ」のボスタ

い。

〈編集部〉

1、新聞の仕事、楽しかったコトブ  
キ三宮本店のパッケージデザイン。  
反骨精神丸出しの作品(エディト  
リアル)が公衆展覧を獲り、嬉しか  
ったこと。

指をくねえながら石阪春夫氏のア  
トリエの作品群に見入ったこと。

徹夜で作成した作品を同じく徹夜  
マジヤンで決る灘本唯人氏に売り  
込んだこと。……これらの思い出  
が次々と浮ぶ。

夕暮れのバリだって？ 朝霧のア  
ムステルダムだって？ 実塔がキラ  
めくワルシャワだって？ 千古の森  
のフィンランドだって？ とんでも  
ない！

神戸北野町の街の一角で結構、  
なんにも知らなくして。

〈神戸市長田区・真野 弘二〉

☆大阪の病氣は神戸で直る。

〈編集部〉

★破乱万丈な戦前、そして混乱の戦

後を通り抜けた今日。この神戸は大

きく門が開かれた。世界各國

の人々に日本の地名のアンテナ

をしたときには今さらながら驚きま

した。一番は「キャピタル」東京、

二番はなんと「エトランゼ」神戸が

上ってました。次いで横浜、長崎、

広島、大阪、京都……私も生涯こ

の神戸をもっとエトランゼに知っ

てみたい。近い将来日本経済の中

心になる街。他の土地にはないづ

ば抜けた明るい土地柄と風情ある街を

……。

南仏の「モンテカルロ」そして

「リビエラ」によく似た感じがしま

せんか。誰人との見きかぬ手を

取り合って「サンパ」を踊ること

が神戸の発展の原点であると確

信します。ダンスをやったり歌を口ず

みながら大きく胸を張って歩ける街

は神戸しかないでしょう。おっけ

よこちよい神戸人のために、お互

いに頑張ります。

〈神戸市垂水区 酒屋 進〉

★神戸まつりによって、と長いお

手紙を頂きました。みなさんのお便

りお待ちしております。

〈編集部〉





# 神戸のうまいもん&ドリンキング

## ★日本料理

讃岐名代うどん あこや亭  
神戸市東灘区旗塚通7-5 TEL 231-6300  
トアロード店 TEL 391-2538  
兵庫駅前店 TEL 575-5306

和食くれない  
三宮生田新道浜側中央  
KCBビル2F TEL 331-0494

かつばう花くま  
神戸市生田区花岡町45  
TEL 341-0240

鍋もの・おむすび 悟味西  
お茶漬・かぼち 神戸市生田区北長狭通1の20 TEL 331-3848  
三宮さんちがタウン TEL 391-5319

お茶漬・おむすび ふる里  
鍋もの 神戸市生田区北長狭通2の1  
TEL 331-5535

たこ焼たちばな  
三宮センター街(旧柳筋) TEL 331-0572

北海道郷土料理 蝦夷  
神戸市生田区中山手通1丁目115  
生田区東門筋東門会館ビル1階  
TEL 331-7770

カニ料理 婆娑羅(ばさら)  
神戸市生田区北長狭通1丁目118  
三宮阪急西口北側レインボープラザ1・2F  
TEL 321-6363

天ブラハウス 瀬戸  
美術喫茶 神戸市生田区山本通3丁目27の9  
瀬戸ビル1F TEL 221-6548

## ★西洋料理

レストラン アポロン  
ティー・バーラー 神戸市東灘区八幡通5丁目6  
TEL 251-3231

レストラン 皮〈あらかわ〉  
神戸市生田区中山手2-9  
TEL 221-8547・231-3315

GALLERY & STEAK HOUSE SAN-MON 三門  
神戸市生田区中山手通2丁目198ノ99  
TEL 331-5817

ステーキハウス れんが亭  
神戸市生田区下山手通2丁目34  
TEL 331-7166

レストラン セントジョージ  
神戸市生田区北野町1丁目130  
TEL 242-1234

レストラン 男爵  
神戸市生田区中山手1-18  
山手第一ビル1F TEL 241-0778

maison de la mode 花屋敷  
三宮フラワーロード市役所前  
TEL 251-2109

鉄板グリル きゃんどん  
神戸市生田区北長狭通2-22  
TEL 331-1183

レストラン キングスアームス  
神戸市東灘区磯辺通4-61  
TEL 221-3774

居酒屋 風井戸のある家  
れすとりん 生田新道新世紀南  
TEL 331-5664

レストラン ムーンライト  
三宮・生田新道  
TEL 331-9554

串かつ店 和蘭陀屋  
三宮相互タクシー北入  
TEL 321-0230

グリル・鉄板焼 月  
神戸市生田区北長狭通1-24  
生田神社前 TEL 331-2509

BARBECUE & STEAK 六段  
生田区元町通3丁目  
TEL 331-2108

レストラン スイスシャレー  
神戸市生田区北野町3丁目48アニルドマンション1F  
TEL 221-4343

レストラン ハイウェイ  
神戸市生田区下山手2-20  
TEL 331-7622

ピッツアハウス ピノッキオ  
神戸市生田区中山手2-101  
TEL 331-3545

レストラン フック東店  
神戸市生田区栄町1-5-3  
TEL 321-3207

ピザ&スパゲティ ガルの店  
三宮合琴緒町5丁目1-7  
西山ビル1F TEL 241-9025

ステーキハウス グリル青山  
神戸市生田区中山手通2丁目112-2  
(トアロード) TEL 391-4858

ピザ・パブ ピザ・パテオ  
神戸市生田区元町通1丁目49(元町1番街)  
TEL 331-9378

ナイト レストラン 火の鳥  
神戸市生田区中山手通1丁目27  
TEL 242-1330

RESTAURANT & BAR ゴックスタッド  
生田区山本通3丁目18 回教寺院前  
TEL 242-0131

メキシコ小料理 ティファナーナ  
神戸市生田区中山手通1丁目4ノ12 パールコーポラスビル1F  
TEL 242-0043

ステーキ&ドリンキング コーベ・ローレライ  
神戸市生田区中山手通2丁目39の36  
TEL 241-3739

★喫茶

宮ホーの にしむら珈琲店  
中山手店・神戸市生田区中山手通1丁目70  
TEL 221-1872・231-9524

センター街店・神戸市生田区三宮町2丁目35  
TEL 391-0669

北野店・山本通2丁目9 TEL 242-2467  
(会員制) 3F事務所 TEL 242-1880

喫茶 ガーデニア  
神戸市生田区東町113-1 大神ビル1F  
TEL 321-5114

珈琲 モーツァルト  
神戸市生田区山本通2丁目98 グランドマンション1F  
TEL 241-3961

ティー&スナック サボテン  
神戸市生田区中山手通2丁目  
(神戸女子短大前) TEL 241-7060

★club

クラブ 千  
神戸市生田区下山手通り2丁目21  
TEL 391-1077

club 飛鳥  
神戸市生田区中山手1丁目117  
TEL 331-7627

club 小万  
神戸市生田区東門筋中島ビル3F  
TEL 391-0638・4386

club さち  
神戸市生田区中山手通2丁目75  
TEL 331-7120

club なぎさ  
神戸市生田区北長狭通2の1 TEL 331-8626

club 落〈ふき〉  
神戸市生田区下山手通2丁目 TEL 391-1515

くらぶ ぶーげん  
三宮生田新道浜側中央KCBビル5F  
TEL 331-8593

club B A R Moon Light  
BAR TEL 331-0886・391-2696  
Club TEL 331-0157

クラブ るらん  
神戸市生田区北長狭通1丁目53 TEL 331-2854

★STAND & SNACK  
ドリンキング & レストラン ベルビュ・ドール  
神戸市生田区中山手通2丁目101 大洋ビル2F  
TEL 321-5677

スタンド 英国屋  
生田区下山手通2-6 相対タクシー横  
TEL 331-1100・331-6600

洋酒ハウス 雑貨屋  
生田区下山手通2丁目8の6  
(生田新道相互タクシー横上る) TEL 321-0260

スタンド グラマール  
生田筋岸ビル地階 TEL 331-4637

SNACK MATSUMOTO  
神戸市生田区中山手通1丁目32-3  
曾根ビル1F TEL 241-5470

カクテルラウンジ サヴォイ  
高梁山側 テキの店北  
TEL 331-2615

DRINKING IS AN ART OF LIFE ウッドハウス  
神戸市生田区下山手通1丁目132  
PHONE 078-241-7320

スナック ビジービー  
神戸市生田区中山手2丁目  
TEL 391-4582

居酒屋 ボルドー  
生田新道浜側中央KCBビル1F  
TEL 331-3575

Wine and something 珍地理屋  
神戸市生田区中山手通1丁目124-7  
大和ナイトプラザ1F TEL 242-0288

サロ 神代  
生田区中山手通1丁目128  
シャトゥコトフビル TEL 242-3567

スタンド くる実  
生田区中山手通1の72  
TEL 331-6985

洋酒の店 キャンティ  
神戸市生田区北長狭通2丁目3  
TEL 391-3060・391-3010

スーパ&パン店 キャンティ北店  
神戸市生田区下山手通3丁目8-9 TEL 331-3661

DRINK SNACK スネカジリッ子  
神戸市生田区下山手通2丁目  
永晃ビルB1 TEL 391-8708

Stand&Snack サントノーレ  
ティー&ドリンク 生田区下山手通2丁目トアロード  
TEL 391-3822

Salon de roulette サントノーレ  
パンドラ ルーレット教室 神戸市生田区中山手通1丁目24-7  
ダイワナイトプラザ6F TEL 241-1710・221-3886

素否洞 でっさん  
神戸市生田区北長狭通1丁目258  
TEL 331-6778

STAND マッシュケナダ  
生田区下山手通2丁目ちやいなタウン地下  
TEL 331-5587

スナック GASTRO  
神戸市生田区中山手通3-20  
トアマンション TEL 231-0723

ティー&パブハウス バスチャーリントン  
生田区北長狭通2丁目(トアロード)  
TEL 332-1125

スナック 比。奈古多  
とらふ料理 神戸市生田区北野町1丁目143  
Tel 241-1306

サロ ional バトロス  
生田区中山手通り1丁目24の7  
大和ナイトプラザ2F-B TEL (231)3300

スナック エルソタノ  
神戸市生田区下山手通 TEL 331-6620

スナック 山荘  
神戸市生田区北長狭通1丁目22  
TEL 391-5823

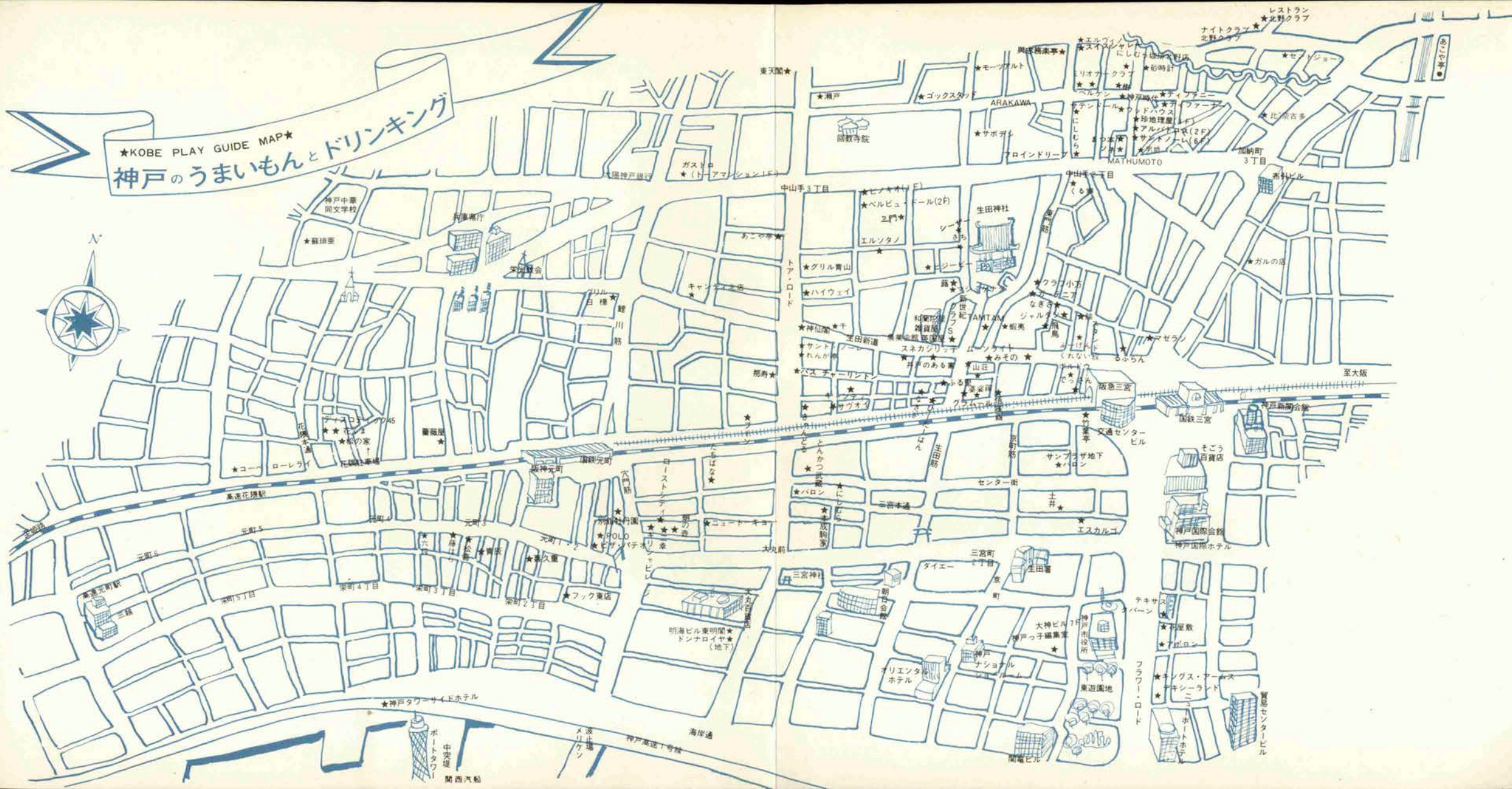
スタンド 紋  
神戸市生田区北長狭通1丁目41-1 レンガ筋  
TEL 331-8858

スナック 興志務楽亭  
神戸市生田区山本通2丁目60 パールライフB1  
TEL 242-1977



★KOBÉ PLAY GUIDE MAP★

神戸のうまいもん＆ドリンキング







# baLlon antique series

XXX ろう人形

砂川 松枝

〈クチュール カセット  
デザイナー〉

お店の商品の買い付けなどで海外に出かけることが多く、その度、気に入った品物や可愛いお人形などを見つけると航空便で送ってもらっています。

このろう人形はヨーロッパへ行った時にスペインで見つけたもの。大きさは3種類ありますが、どのお人形も顔の表情が同じで、背中に羽根をつけています。幸運のエンジェルなんでしょう。手には聖書を持っています。このお店でコーヒーを楽しんでいると、ドイツにいるような雰囲気味が味わえますね。

センター街 バロンにて  
カメラ/米田 定蔵



## バロン

★英国風喫茶・レストラン 三宮さんプラザ店  
TEL 391-1758 AM11:00~PM 9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店  
TEL 391-1210 AM10:00~PM 9:00迄

★コーヒーショップ センター街店  
TEL 391-1375 AM10:00~PM 9:00迄

# 元町の味

元町別館牡丹園 ★

時雨茶屋 ★

元町4丁目

元町3丁目

元町1番街

★  
みの幸

★  
元町フルーツホール



★純日本料理  
時雨茶屋  
△元町3丁目△331-0070  
52年の伝統を誇る純日本料理のお店。  
広い店内には、テーブル席、お座敷席  
もあり、落ち着いた雰囲気です。  
御定食(松・竹・梅) 一五〇〇円より  
幕の内 七五〇円より  
たい茶漬 一五〇〇円



★広東料理  
元町別館牡丹園  
△元町1丁目11△331-5790  
「ご家族つれに」生野菜  
に「炒鮮奶」等、本場の  
広東料理の味が楽しめます。  
1、2階デ  
ブル席、3階はお座敷。  
30名様までのご宴会も  
お引き受けいたします。



★京風料理  
みの幸  
△元町4丁目△351-6288

元町で京風料理が味わえる  
店。季節料理も大へん豊富。  
夏のスタミナ料理として「み  
の幸」独自のうなぎ料理を始  
めました。一度御賞味下さい。  
うなぎ丼 一、二〇〇円  
蒲焼 一、二〇〇円



★レストラン  
元町フルーツホール  
△元町1番街△331-1987

エキゾチックなレンガ  
造りの建物。1、2階  
共、店内は広いテー  
ブル席、お料理もお店のム  
ードもヨーロッパ調、コ  
トダニオン(小羊の網焼  
き)等本場の味をどうぞ。







▲パレス塩屋 1 周年記念シーサイドパーティーより(1975.6.15)

## 夏。紺碧の海と汐風。そして本場のフランス料理を。

ヨットやモーターボートでもおこし頂ける  
南仏風レストラン



**SEA SIDE CLUB**  
**PALACE**  
**SHIOYA**

神戸市垂水区塩屋町字高尾179の6 シーサイドパレス塩屋内  
(国鉄塩屋駅西400メートル) TEL 753-1373 (駐車場完備)

### ★メニュー

自家製パテ 400円、舌平目のムニエル 1,200円、骨つき仔牛の  
紙包み料理 1,400円、ニース風サラダ 700円、ディナー各種  
2,000円、3,000円、5,000円、コーヒー 300円、グラスワイン  
300円、カティサーク・ボトル 7,000円、ラングススコッチ・ボ  
トル 5,000円

☆営業時間 11:00A.M.~11:00P.M. 7、8月は無休

# GRILL & COFFEE ROOM Compasses

葦合区二宮町 3 丁目 12 大西ビル 2F

TEL 078-242-1236

加納町 3 丁目交差点東へ産業道路を  
300m 浜側、大西パーキング前

営業時間 / AM10:00 ~ AM3:00



## 神戸 港町ときたら コンパス!!

金田正一さん・談



店は新しいが 料理の味には古い  
歴史のようなものが感じとられる。  
なかでも木田チーフのつくるコン  
パス特製のビーフシチューなんて  
“ゲー”のひとことにつきる。  
パーティ・商談などを船室（キャ  
ビン）ムードで味わたる神戸っ子  
がうらやましい。





ちくせんミュージックタイム  
 藤沢先生によるピアノの弾き語り ○6:00pm~8:00pm ○0:00am~2:00am  
 神戸のター坊による演歌熱唱 ○8:00pm~0:00am

**スナック**

**ちくせん**



神戸市生田区下山手通1丁目85 (東門筋) 中島ビル4F

☎331-3131

近藤正実・岩本文夫





ブランク

生田区中山手通1丁目24-7

ダイワナイトプラザ2F

☎231-2000



DRINKING IS AN ART OF LIFE 生田区中山手通1丁目32

WOODHOUSE

山内ビル

☎241-7320

KOBE DRINKING GUIDE

山崎  
ステーキハウス

生田区中山手通1丁目

前川ビル1F

☎391-3335



クラブ  
鈴

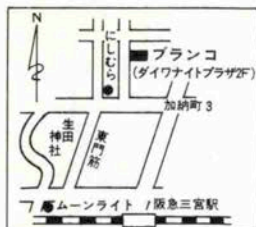
生田区中山手通1丁目111

☎331-2403



☆春にオープンした“ブランコ”が初めての夏を迎えます。ママのとも子さんは夏バテも知らず毎日頑張っているのですが、夏は仲々日が暮れないのでお客さまの出足も遅くなりますねえ……といささかうらめじ。だから、もし、あなたが開店早々にお店へ行けば大歓迎をしてもらえるのはまず間違いないでしょう。「値段を安くして、気軽に飲めるお店にしたい」というのがとも子さんのモットーですが、年配の人でも若い人も静かにお酒が飲めて、気楽に語り合えるアットホームなお店なのです。  
 ☆ボトル／カティーサーク ¥9,000 オールド、G & G 各 ¥7,000  
 水割／カティーサーク ¥600 オールド、G & G 各 ¥500、おじや ¥600  
 他に軽食もあります。

5:30 P.M. ~ 0:30 A.M. 年中無休



ブランコ

ウッドハウス

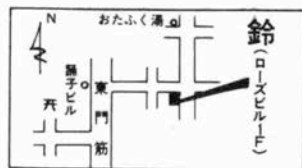


# KOBE DRINKING GUIDE



ヤマサキ

スズ



☆本格的な夏の到来ですが、こんなときこそサマニナのつく食事をしたいものです。ステーキハウス“山崎”へいらっしやいませんか。最上級の神戸肉と新鮮な生野菜は夏をのりきるエネルギー源。もちろん、その味は、こと味に関してはうまい神戸っ子たちにも定評があります。それだけではありません。落ち着いた雰囲気、それに、各種のワインも揃っていますので、ゆっくりとお食事を楽しんでいただけます。また、あらかじめ予約をしておきますと奥のボックス席が利用できますので30名ほどのパーティーには最適です。家族づれ、友人同士、グループなどの会合にぜひご利用下さい。

☆最上級神戸肉ステーキ ¥5,000 サーロインステーキ ¥3,000 テンダーロインステーキ ¥3,000 車海老のバター焼き、アワビのバター焼き、ビール ¥300 ボトル (O.L.D) ¥5,000 ボトル (ホワイトホース)、ボトル (カティーサーク) 各 ¥7,000

5:00 P.M. ~ 2:00 A.M. 日曜日休み

☆“アー、暑い暑い” 夏の日にはつきのものことば。これを耳にする何故かよけいに暑さを感じる。今年の夏、あなたが耳にするのは、“暑い”ってことを忘れさせるクールさと、ハッピーを混ぜたゴキゲンな演奏とさわやかドリンクとの出会い。夢を見てすごすにはちょっとおいしい夏の夜、出かけてみたい“ウッドハウス”。

夏の風とともにあなたへ！ “ウッドハウス”から。

☆営業時間のお知らせ。平日／午前8時→午前4時30分、日曜／午後6時→午前12時、年中無休

コーヒー ¥150 紅茶 ¥150 ビラフ ¥250 サービスランチ ¥300 ビール(小) ¥300 水割り (オールド) ¥400 フィズ ¥500 おつまみ ¥100

☆クラブ“鈴”が移転先から元のふるすへ戻って来ました。お店のなかも一段と光輝を増し、といえぱちょっと大ききかも分りませんが、花隈の名妓だったママにふさわしくステキな雰囲気と漂わせています。正直なところ、クラブ“鈴”については今さらクドクドいうこともないようです。何しろ、すでにクラブの名門としての実力も十分にあり、ファンの層も厚く、下手なことを書くとおこられそうです。とにかく、他の店にはない魅力があるようですね。どういう魅力かといわれてもそれは言葉では表現できません。やはり、一度、お店へ足を運んでいただかないと……。そうすれば、あなたもきっと納得されるでしょう。では、のちほど、“鈴”でお会いしましょう。

☆5:30 P.M. ~ 0:00 A.M. 日曜祭日休み